

令和6年度 埼玉東上地域大学教育プラットフォーム(TJUP) 共同IR報告書

[テーマ]

- ◆ 「参加大学全体の入学者数5%向上」(アウトカム指標(2)-2)
- ◆ 「参加大学全体の外国人留学生の入学者数5%向上」(アウトカム指標(2)-3)
- ◆ 「活性化対象地域、埼玉県に事業所等がある企業、自治体等への就職率10%増加」(アウトカム指標(4)-3,(4)-4)について

(報告日:2024年10月25日)

表記の件について調査を行いましたので、下記の通り、ご報告いたします。

記

1. 調査の趣旨

TJUPでは「地元で学び、地元で生きていく若い世代への支援」というビジョンの実現に向け、各種、取組みの検討・実施を行っている。今回は、昨年につきビジョンの達成状況を示す「アウトカム指標」のうち、「参加大学全体の入学者数5%向上」「参加大学全体の外国人留学生の入学者数5%向上」「活性化対象地域、埼玉県に事業所等がある企業、自治体等への就職率10%増加」の3指標に関する調査を行った。

2. 調査対象

TJUP会員校18校(私立大学14、私立短期大学4)

3. 調査期間

令和6(2024)年7月29日(月)～8月20日(火)

4. 調査項目

- 1) 「参加大学全体の入学者数5%向上」に関する群
 - ① 志願者数(2024年度選抜志願者対象)(図1～4)
 - ・2024年度志願者数
 - ・志願者数の出身校の内訳(埼玉・東京・以外)
 - ② 入学者数(2024年度,2023年度入学者数対象)(図5～8)
 - ・2024年度,2023年度入学者数(全体・埼玉・東京・以外)
- 2) 「外国人留学生の入学者数5%向上」に関する群

2024年度,2023年度 志願者数 (図 9~11)

- ・留学生の受け入れ有無
- ・留学生の志願者数
- ・留学生の入学者数

3) 「活性化対象地域、埼玉県に事業所等がある企業、自治体等への就職率10%増加」

2023年度,2022年度就職者数 (図 12~15)

- ・就職者数 (全体)
- ・2023年度,2022年度 埼玉県内に事業所がある企業への就職者数
- ・2023年度,2022年度 埼玉県内に自治体等への就職者数
- ・就職者のうち埼玉県内 (企業+自治体等) への就職率

5. 調査結果・考察

1. 基盤となる取り組み (共同事業) の推進

アウトカム指標 No.(2)-2 参加大学全体の入学者数 5%向上 (2023 年度入学者比較)

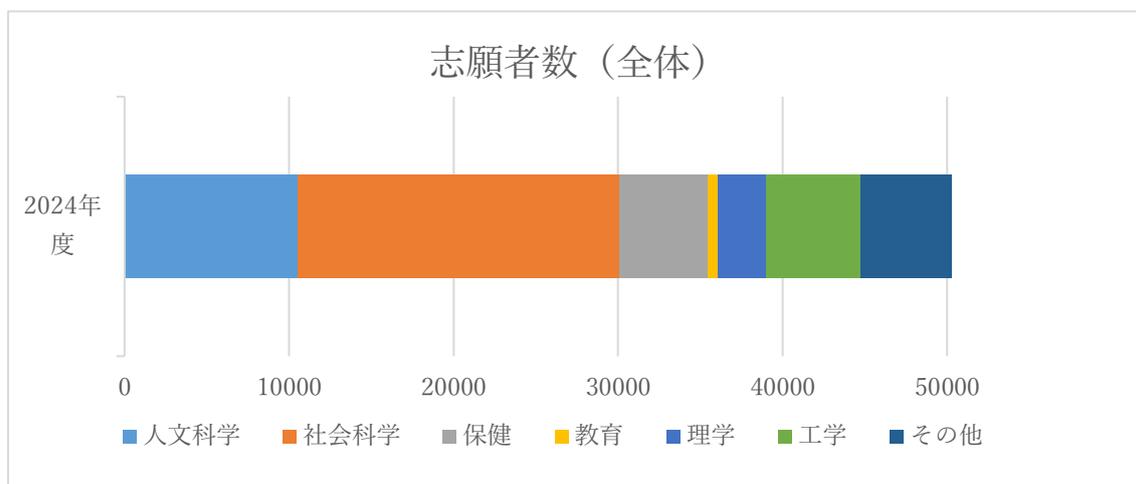
学科・学問の大分類による内訳 (学科編成の都合等により無回答の学科を除く) は以下のとおり。

	人文科学	社会科学	保健	教育	理学	工学	その他	総計
2024 年度	12	23	19	4	5	4	5	72

※回答が 1 学科のみであった芸術・家政は「その他」に計上

(2)-2-1 2024 年度 志願者数

①志願者数



【図1】 TJUP 内大学・短期大学の分野別志願者数（全体：2024 年度）

TJUP 会員校における志願者数（全体）は、図1に示すとおりである。

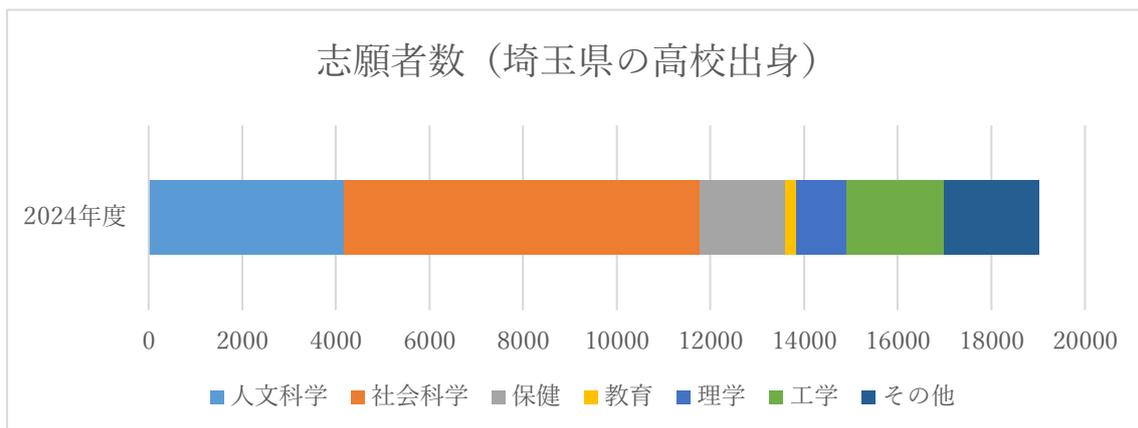
志願者数は合計 50,307 人であった。内訳は、人文科学 10,537 人（構成比率 20.9%）、社会科学 19,526 人（38.8%）、保健 5,404 人（10.7%）、教育 613 人（1.2%）、理学 2,916 人（5.8%）、工学 5,795 人（11.5%）、その他 5,516 人（11.0%）であった。

2020 年度からの総志願者数は、2020 年度 67,074 人、2021 年度 62,681 人、2022 年度 53,403 人、2023 年度 45,148 人であった。2024 年度の総志願者数は前年比 111.4%となっており、増加していることが見て取れる。

志願者数（全体）が増加した要因としては、大学の都心回帰もさることながら、コロナ禍の収束に伴い、地方から都市部の私立大学への志願者数が回復傾向にあることが一因であると考えられる。

(2)-2-2 2024 年度 志願者出身高校の内訳

②志願者のうち埼玉県の高校出身者数（非公表1校）



【図2】 TJUP 内大学・短期大学の分野別志願者数（埼玉県の高校出身者数：2024 年度）

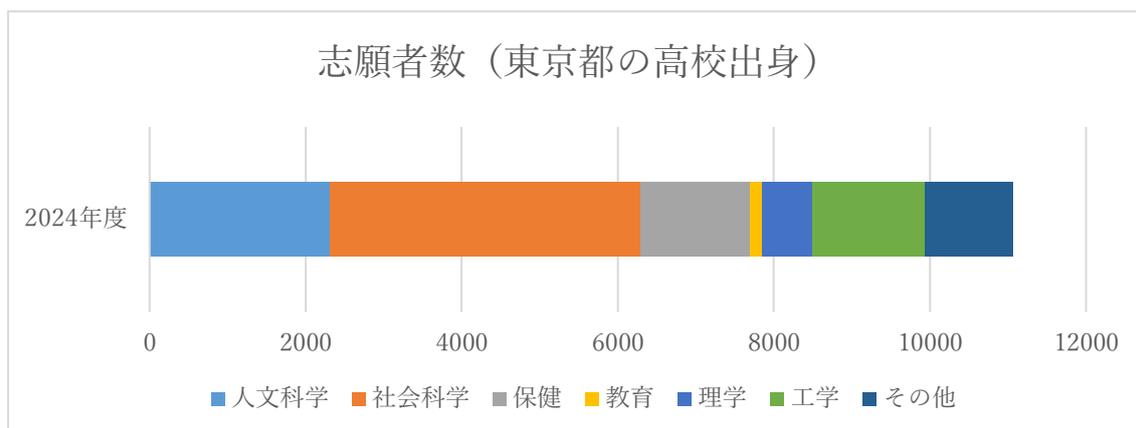
TJUP 会員校における志願者数（埼玉県の高校出身）は、図2に示すとおりである。

志願者のうち埼玉県の高校出身者は合計 19,019 人（上記①の志願者のうち 37.8%）であった。内訳は、人文科学 4,180 人（構成比率 22.0%）、社会科学 7,592 人（39.9%）、保健 1,822 人（9.6%）、教育 246 人（1.3%）、理学 1,071 人（5.6%）、工学 2,072 人（10.9%）、その他 2,036 人（10.7%）であった。

TJUP 内大学・短期大学に対する埼玉県内所在の高校出身志願者数は、2020 年度 23,354 人、2021 年度 20,429 人、2022 年度 18,601 人、2023 年度 17,025 人であった。2022 年度調査は前年比 91.1%、2023 年度調査は前年比 91.5%と減少傾向にあったが、2024 年度調査では前年比 111.7%と増加に転じている。

後述する東京都からの志願者数と比べると増加幅が大きく、「地元で学び、地元で生きていく」意識を持った若い世代が増加傾向にあることが伺える。当該項目は TJUP のビジョン達成に大きく関係する指標であるため、今後の傾向に注視が必要である。

③志願者のうち東京都の高校出身者数（非公表 1 校）



【図 3】 TJUP 内大学・短期大学の分野別志願者数（東京都の高校出身者数：2024 年度）

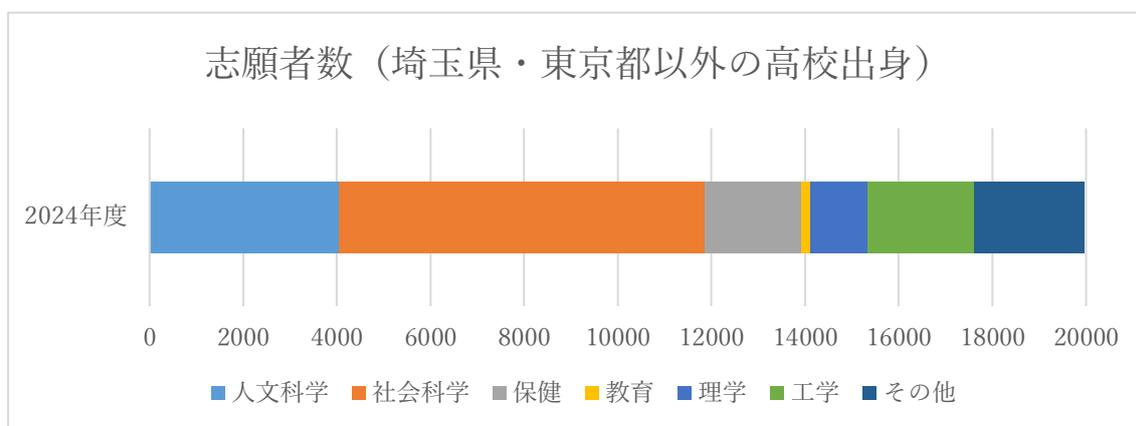
TJUP 会員校における志願者数（東京都の高校出身）は、図 3 に示すとおりである。

志願者のうち東京都の高校の出身者は合計 11,062 人（上記①の志願者のうち 21.9%）であった。内訳は、人文科学 2,305 人（構成比率 20.8%）、社会科学 3,991 人（36.1%）、保健 1,395 人（12.6%）、教育 161 人（1.5%）、理学 641 人（5.8%）、工学 1,442 人（13.0%）、その他 1,127 人（10.2%）であった。

TJUP 内大学・短期大学に対する東京都内所在の高校出身志願者数は、2020 年度 15,783 人、2021 年度 16,386 人、2022 年度 12,023 人、2023 年度 10,326 人であった。2022 年度調査では前年比が 73.4%と大幅に減少し、2023 年度調査でも前年比 85.9%とそれぞれ減少傾向にあったものの、2024 年度調査では前年比 107.1%と増加している。

入試制度の変更やコロナ禍による移動制限の影響も懸念されたが、志願者数（全体・埼玉県の高校出身）と同様、コロナ禍の収束に伴い、都市部の私立大学を志望する受験生が増加したことが一因であると考えられる。

④志願者のうち埼玉県および東京都以外の高校出身者数（非公表 1 校）



【図 4】 TJUP 内大学・短期大学の志願者数（埼玉県・東京都以外の高校出身者数：2024年度）

TJUP 会員校における志願者数（埼玉県・東京都以外の高校出身）は、図 4 に示すとおり

である。

志願者のうち埼玉県および東京都以外の高校出身者は合計 19,963 人（上記①の志願者のうち 39.7%）であった。

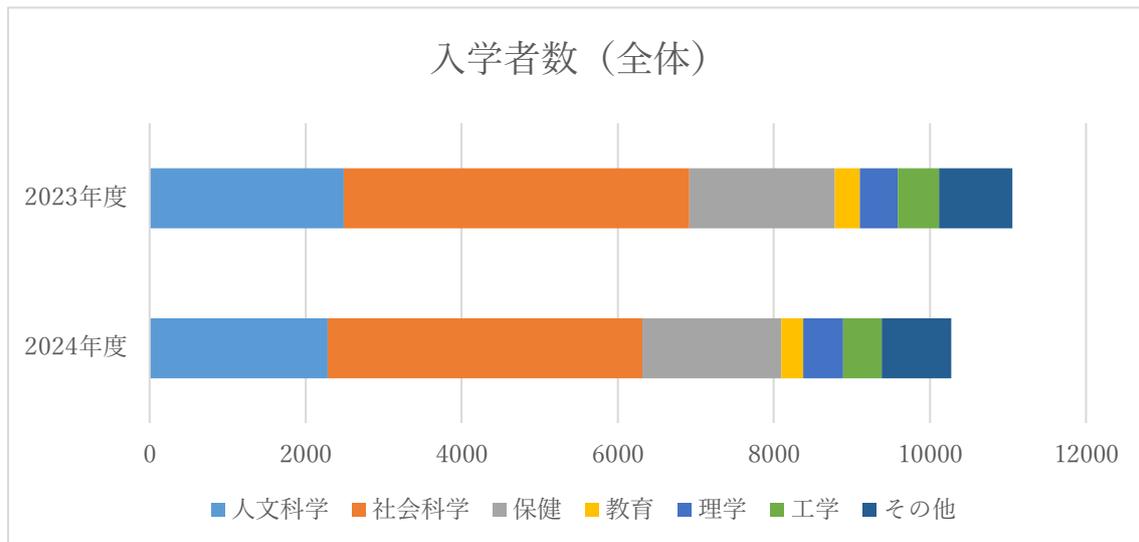
内訳は、人文科学 4,052 人（構成比率 20.3%）、社会科学 7,799 人（39.1%）、保健 2,068 人（10.4%）、教育 206 人（1.0%）、理学 1,204 人（6.0%）、工学 2,281 人（11.4%）、その他 2,353 人（11.8%）であった。

埼玉・東京以外の高校出身の志願者数は、2020 年度 27,751 人、2021 年度 25,343 人、2022 年度 22,278 人、2023 年度 17,822 人であり、2022 年度調査では前年比が 87.9%、2023 年度調査でも前年比 80.0%と減少傾向にあったが、2024 年度調査では前年比 112.0%と増加している。

先述の「埼玉県の高校からの志願者数」と同等程度の増加率を記録していることから、コロナ禍の収束に伴い、地方から都市部の私立大学への志願者数が回復し、大学の都心回帰が加速していることが見て取れる。

(2)-2-3 2024 年度 入学者数、 (2)-2-5 2023 年度 入学者数

⑤入学者数（非公表 1 校）



【図 5】 TJUP 内大学・短期大学の分野別入学者数（全体：2024 年度）

TJUP 会員校における入学者数（全体）は、図 5 に示すとおりである。

入学者数は合計 10,273 人（上記①の志願者のうち 20.4%）であった。

内訳は、人文科学 2,285 人（構成比率 22.2%）、社会科学 4,029 人（39.2%）、保健 1,780 人（17.3%）、教育 286 人（2.8%）、理学 510 人（5.0%）、工学 492 人（4.8%）、その他 891 人（8.7%）であった。2023 年度の入学者数は 11,053 人であり、2024 年度調査では前年比 92.9%と減少している。

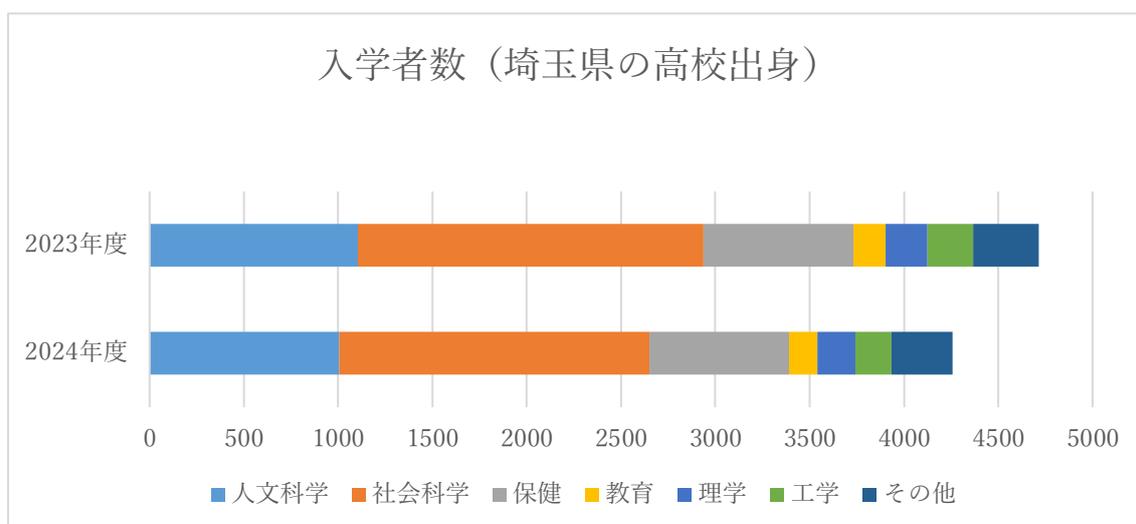
分野毎の前年比で見ると、人文科学 91.9%、社会科学 90.9%、保健 95.5%、教育 88.8%、

理学 104%、工学 93%、その他 95.2%となり、理学系を除き、全体的に減少となった。

志願者数増加に対して、入学者数（全体）が減少した要因として、コロナ禍の収束による影響は感じられるものの、依然として受験生にとって「立地」や「新設学部」、「競合大学等の動向」が大きく影響を及ぼしていると考えられる。

(2)-2-4 2024年度 入学者出身高校の内訳、 (2)-2-6 2023年度※ 入学者出身高校の内訳

⑥入学者のうち埼玉県の高校出身者（非公表1校）



【図6】TJUP 内大学・短期大学の分野別入学者数（埼玉県の高校出身者数：2023、2024年度）

TJUP 会員校における入学者数（埼玉県の高校出身）は、図6に示すとおりである。

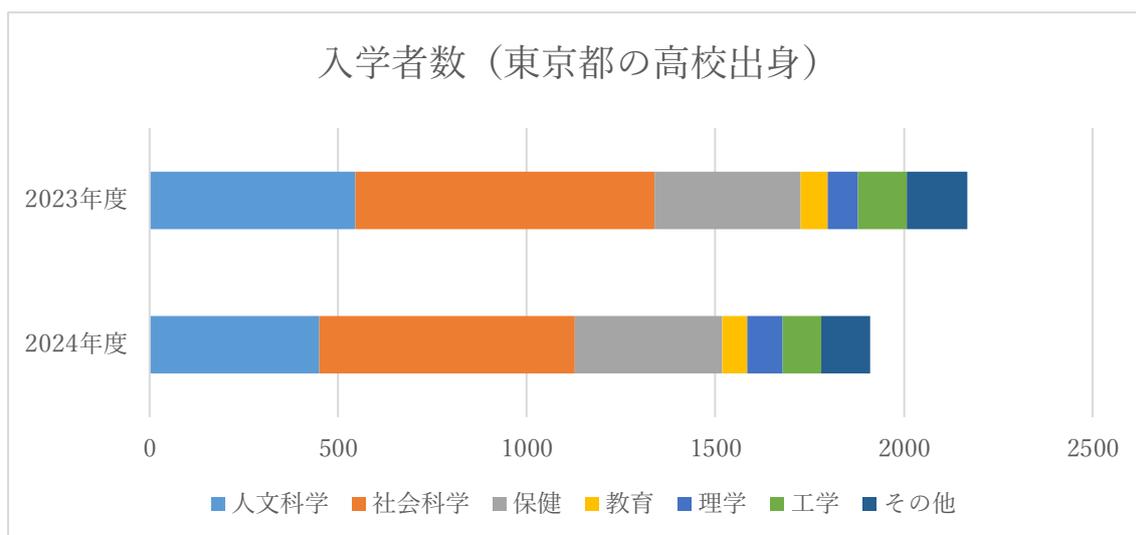
入学者のうち埼玉県の高校出身者は合計 4,256 人（上記⑤の入学者のうち 41.4%）であった。

内訳は、人文科学 1,006 人（構成比率 23.6%）、社会科学 1,646 人（38.7%）、保健 738 人（17.3%）、教育 150 人（3.5%）、理学 201 人（4.7%）、工学 194 人（4.6%）、その他 321 人（7.5%）であった。2023 年度の入学者数は 4,715 人であり、2024 年度調査では前年比 90.2%と減少している。

分野毎の前年比で見ると、人文科学 91.0%、社会科学 89.7%、保健 92.8%、教育 88.7%、理学 90.9%、工学 79.8%、その他 91.9%となり、全体的に減少となった。

先述の入学者数（全体）と同様、入学者数（埼玉県の高校出身）が減少した要因として、依然として受験生にとって「立地」や「新設学部」、「競合大学等の動向」が大きく影響を及ぼしていると考えられる。

⑦入学者のうち東京都の高校出身者（非公表1校）



【図7】 TJUP 内大学・短期大学の分野別入学者数（東京都の高校出身者数：2023、2024 年度）

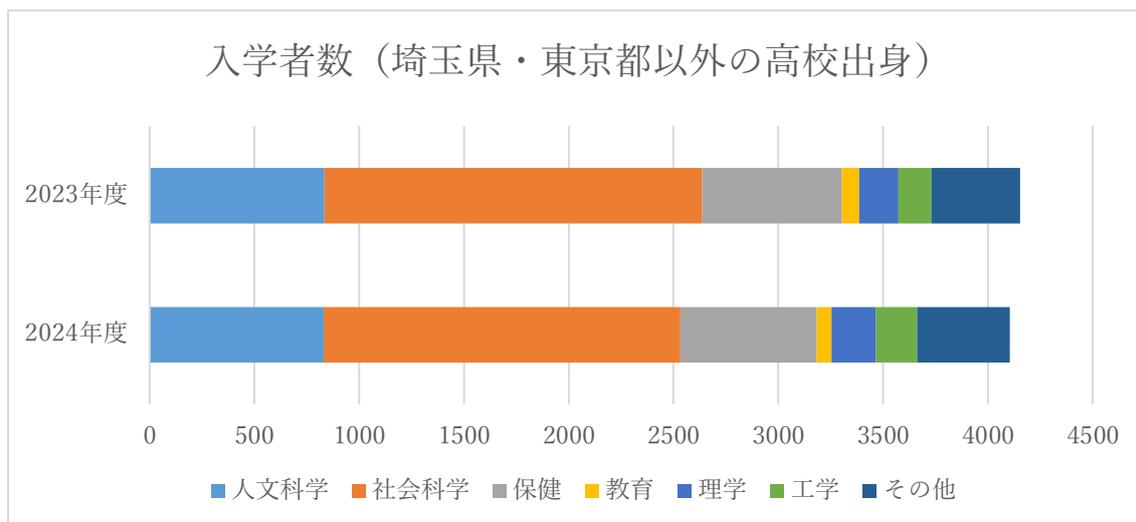
TJUP 会員校における入学者数（東京都の高校出身）は、図7に示すとおりである。

入学者のうち東京都の高校出身者は合計 1,911 人（上記⑤の入学者のうち 18.6%）であった。内訳は、人文科学 449 人（構成比率 23.5%）、社会科学 679 人（35.5%）、保健 390 人（20.4%）、教育 66 人（3.5%）、理学 95 人（5.0%）、工学 102 人（5.3%）、その他 130 人（6.8%）であった。2023 年度の入学者数は 2,168 人であり、2024 年度調査では前年比 88.1% と減少している。

分野毎の前年比で見ると、人文科学 82.3%、社会科学 85.5%、保健 100.7%、教育 91.6%、理学 118.7%、工学 79.0%、その他 80.7% となり、保健・理学系を除き、全体的に減少となった。

先述の入学者数（全体）と同様、入学者数（東京都の高校出身）が減少した要因として、依然として受験生にとって「立地」や「新設学部」、「競合大学等の動向」が大きく影響を及ぼしていると考えられる。東京都以外の高校からの入学者数と比較しても減少傾向は顕著であり、都内にキャンパスが所在する大学等への進学を希望する者が多くいたことが伺える。

⑧入学者のうち埼玉県および東京都以外の高校出身者数（非公表1校）



【図8】TJUP内大学・短期大学の入学者数（埼玉県・東京都以外の高校出身者数：2024年度）

TJUP 会員校における入学者数（埼玉県・東京都以外の高校出身）は、図8に示すとおりである。

入学者のうち埼玉県および東京都以外の高校出身者は、合計 4,104 人（上記⑤の入学者のうち 39.9%）であった。内訳は、人文科学 830 人（構成比率 20.1%）、社会科学 1,704 人（41.5%）、保健 649 人（15.8%）、教育 70 人（1.7%）、理学 214 人（5.2%）、工学 197 人（4.8%）、その他 440 人（10.7%）であった。2023 年度の入学者数は 4,155 人であり、2024 年度調査では前年比 98.7%と減少している。

分野毎の前年比で見ると、人文科学 99.5%、社会科学 94.4%、保健 97.4%、教育 86.4%、理学 113.8%、工学 125.4%、その他 103.5%となり、理学・工学系およびその他の分野を除き、全体的に減少となった。

先述の入学者数（全体）と同様、入学者数（埼玉県・東京都以外の高校出身）が減少した要因として、依然として受験生にとって「立地」や「新設学部」、「競合大学等の動向」が大きく影響を及ぼしていると考えられる。

1. 基盤となる取り組み（共同事業）の推進

アウトカム指標 No.(2)-3 参加大学全体の外国人留学生の入学者数 5%向上（2023 年度入学者比較）

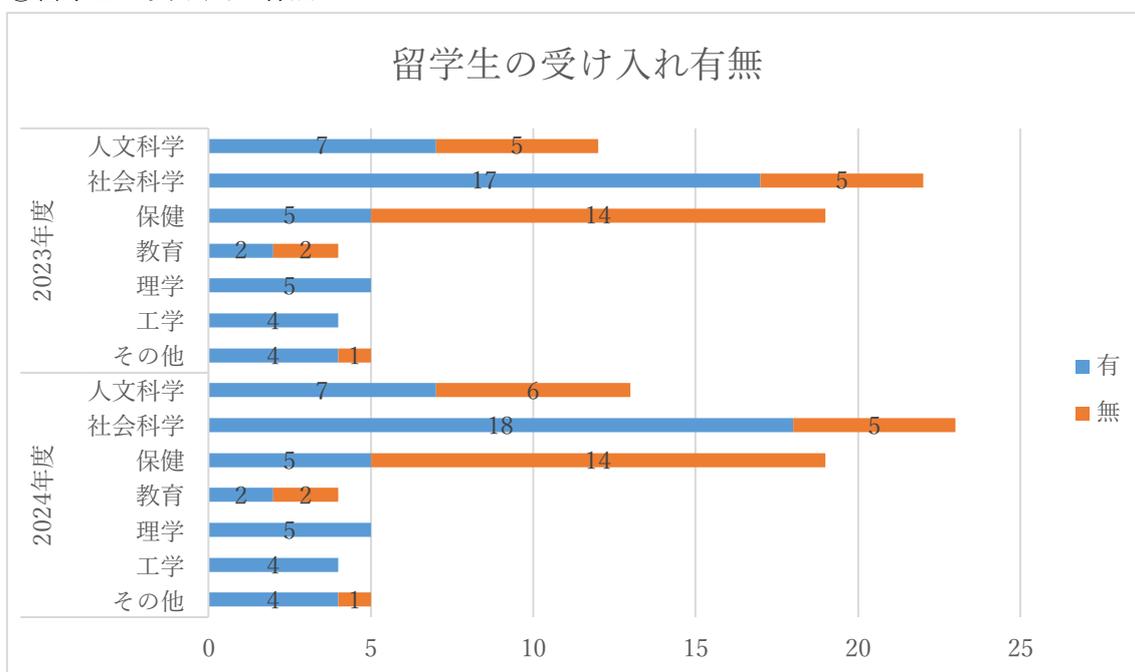
学科・学問の大分類による内訳（学科編成の都合等により無回答の学科を除く）は以下のとおり。

	人文科学	社会科学	保健	教育	理学	工学	その他	総計
2024 年度	13	24	19	4	5	5	5	75

※回答が 1 学科のみであった芸術・家政は「その他」に計上

(2)-3-1 2024 年度 志願者数、 (2)-3-3 2023 年度 志願者数

①留学生の受け入れ有無



【図 9】 TJUP 内大学・短期大学の留学生の受け入れ有無（全体：2023、2024年度）

TJUP 会員校における留学生の受け入れ有無は、図 9 に示すとおりである。

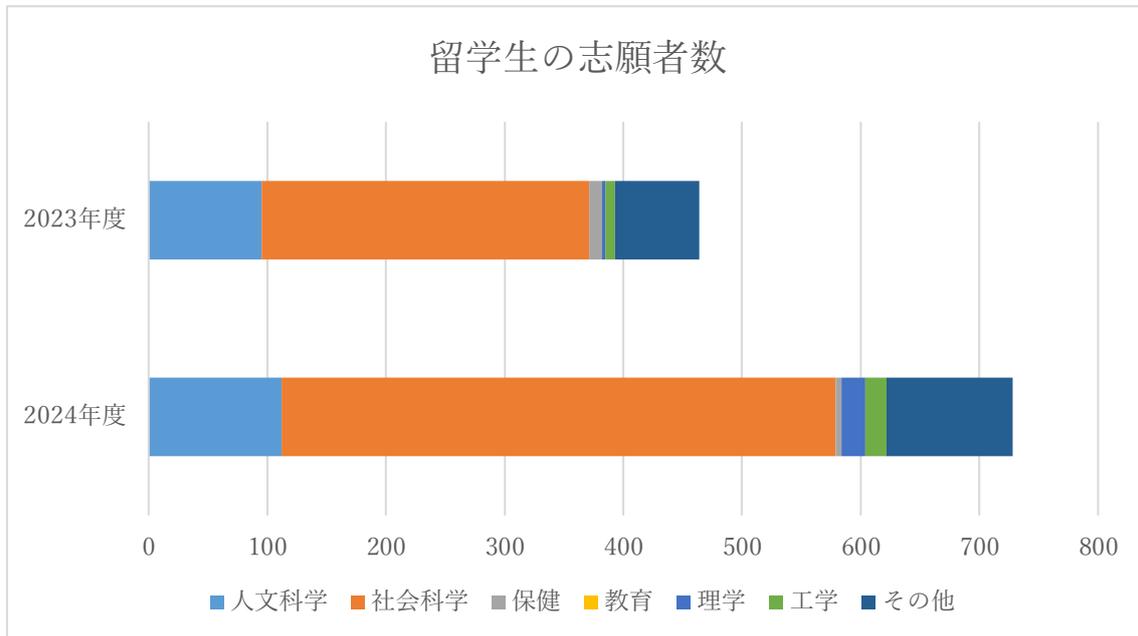
留学生の受け入れは、有が 45 学科、無が 28 学科（無回答 2 学科を除く）であった。受け入れ【有】の内訳は、人文科学 7 学科、社会科学 18 学科、保健 5 学科、教育 2 学科、理学 5 学科、工学 4 学科、その他 4 学科であった。2023 年度の受け入れ学科数は 44 学科であり、2024 年度調査では前年比で 1 学科増となっている。

分野毎の前年比で見ると、社会科学系における受け入れ【有】の 1 学科増、人文科学における受け入れ【無】の 1 学科増を除き、いずれの分野も増減なしとなった。

大学のグローバル化がより一層進み、今後も留学生の受け入れ増加が見込まれる中、コロナ禍で留学生の受け入れ数の減少や停止を余儀なくされた会員校もあったが、学科におけ

る留学生の受け入れ有無に関しては、大きな影響が生じなかったことが伺える。

②留学生の志願者数



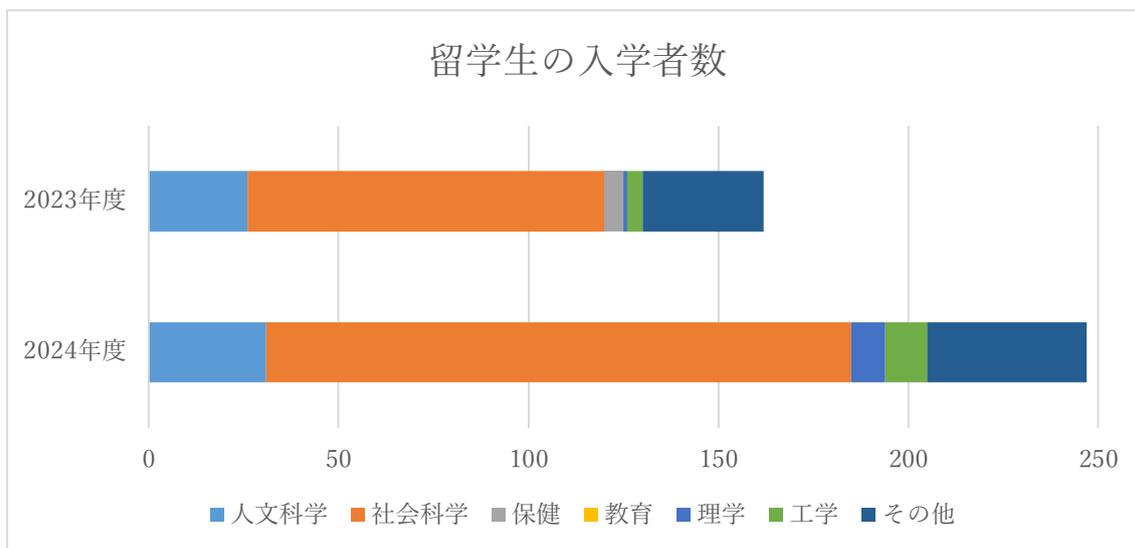
【図 10】 TJUP 内大学・短期大学における留学生 志願者数（全体：2023、2024 年度）

TJUP 会員校における留学生の志願者数は、図 10 に示すとおりである。

留学生の志願者は、合計 728 人（上記①の志願者のうち 1.4%）であった。内訳は、人文科学 112 人（構成比率 15.4%）、社会科学 467 人（64.1%）、保健 5 人（0.7%）、理学 20 人（2.7%）、工学 18 人（2.5%）、その他 106 人（14.6%）であった。2023 年度の志願者数は 464 人であり、2024 年度調査では前年比 156.8%と大幅に増加している。また、分野毎の前年比で見ると、社会科学においては前年比 169.2% になるなど大幅な増加がみとれる。

TJUP 内大学・短期大学に通う留学生の出身国は、中国・韓国・台湾や東南アジアが多く、これらの留学生が日本での修学を希望する理由としては、「日本語習得によるキャリアアップ」や「卒業後の進路先」、「欧米諸国と比較して学費が低いこと」、「日本社会や文化への関心」等が考えられる。また、コロナ禍の収束や円安、2024 年 6 月の入管法および技能実習法改正に伴う「育成就労制度導入」をはじめ、グローバル化を後押しする機運が高まっていることから、今後の動向により一層の注視が必要である。

③留学生の入学者数



【図 11】 TJUP 内大学・短期大学における留学生 入学者数（全体：2023、2024 年度）

TJUP 会員校における留学生の入学者数は、図 11 に示すとおりである。

留学生の入学者は、合計 247 人（上記②の志願者のうち 33.9%）であった。内訳は、人文科学 31 人（構成比率 12.6%）、社会科学 154 人（62.3%）、理学 9 人（3.6%）、工学 11 人（4.5%）、その他 42 人（17.0%）であった。2023 年度の入学者数は 162 人であり、2024 年度調査では前年比 152.4%と、志願者同様、大幅に増加している。また、分野毎の前年比で見ると、志願者数の傾向と同様に、社会科学においては前年比 169.2% になるなど大幅な増加がみてとれる。

会員校における日本人学生の 2024 年度入学率が 20.4%であったのに対して、留学生の入学率は 33.9%と、東武東上地域での就学を希望する学生の割合が大きいことが見て取れる。

入学者が増加した要因は、先述の留学生 志願者数と同様であると考えられる。

2. 新しい地域づくりの推進

活性化対象地域、埼玉県に事業所等がある企業、自治体等への就職率各 10%増加（2022 年度比較）

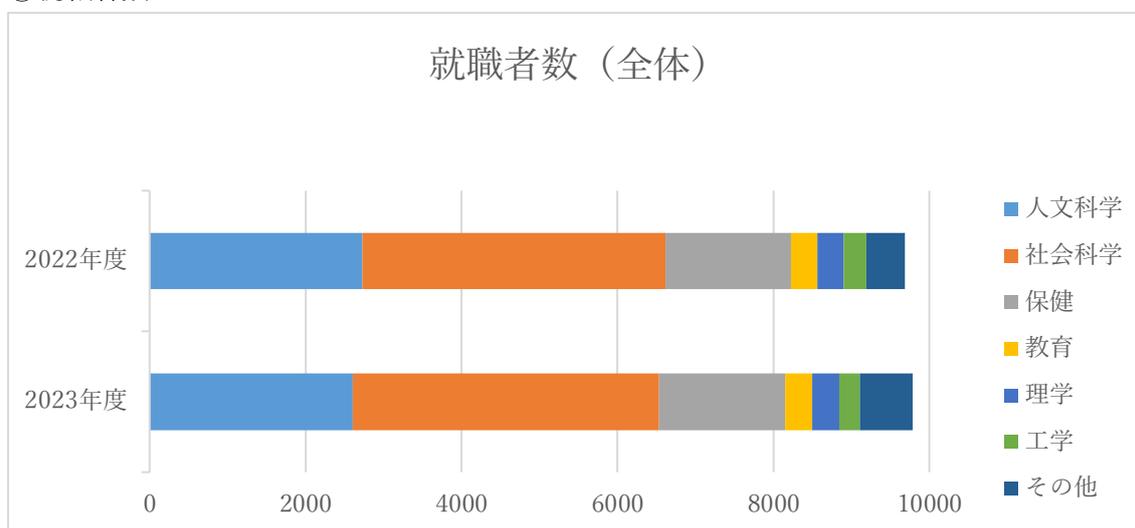
学科・学問の大分類による内訳（学科編成の都合等により無回答の学科を除く）は以下のとおり。

	人文科学	社会科学	保健	教育	理学	工学	その他	総計
2024 年度	13	22	18	4	5	4	5	71

※回答が 1 学科のみであった芸術・家政は「その他」に計上

(4)-3 4-1 2023 年度 就職者数、 (4)-3 4-4 2022 年度 就職者数

①就職者数



【図 12】 TJUP 内大学・短期大学における就職者数（全体：2022、2023 年度）

TJUP 会員校における就職者数（全体）は、図 12 に示すとおりである。

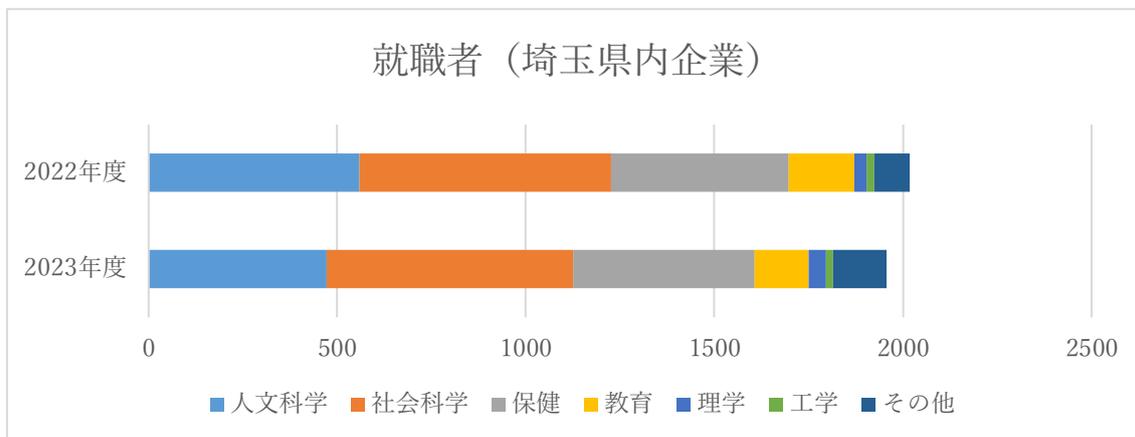
2023 年度における就職者は、合計 9,785 人であった。内訳は、人文科学 2,609 人（構成比率 26.6%）、社会科学 3,927 人（40.1%）、保健 1,614 人（16.4%）、教育 351 人（3.5%）、理学 344 人（3.5%）、工学 263 人（2.6%）、その他 677 人（6.9%）であった。2022 年度就職者数 9,690 人と比較して、2023 年度は前年比 100.9%と、微増となっている。

分野毎の前年比で見ると、人文科学 95.5%、社会科学 101.0%、保健 100.1%、教育 98.0%、理学 101.1%、工学 91.9%、その他 135.6%となり、人文科学・教育・工学系を除き、全体的に微増となった。

2019～2022 年度における TJUP 会員校学生の就職者数総数は、2019 年度 10,062 人、2020 年度 9,589 人、2021 年度 10,030 人、2022 年度 9,690 人であった。2022 年度調査では前年比 104.6%で、2023 年度調査では前年比 96.6%と減少に転じていたが、今回の調査では微増となった。

- (4)-3 4-2 2023 年度 埼玉県内に事業所がある企業への就職者数、
 (4)-3 4-5 2022 年度※ 埼玉県内に事業所がある企業への就職者数

②就職者のうち埼玉県内企業への就職者数



【図 13】 TJUP 内大学・短期大学における就職者数（埼玉県内企業：2022、2023 年度）

TJUP 会員校における埼玉県内企業への就職者数は、図 13 に示すとおりである。

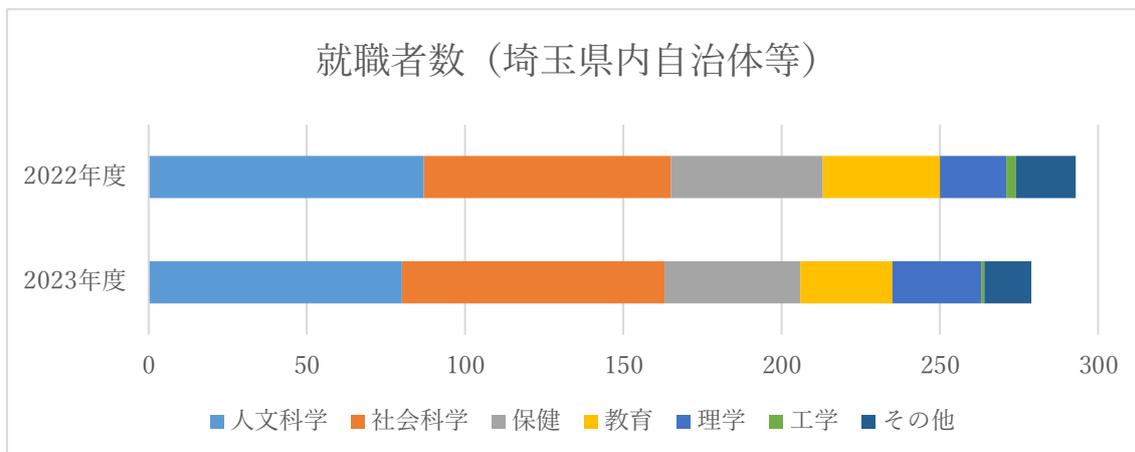
就職者のうち埼玉県内企業への就職者は、1,956 人（上記①の就職者のうち 19.9%）であった。内訳は、人文科学 472 人（構成比率 24.1%）、社会科学 653 人（33.3%）、保健 481 人（24.5%）、教育 144 人（7.3%）、理学 46 人（2.3%）、工学 19 人（0.9%）、その他 141 人（7.2%）であった。2022 年度の埼玉県内企業への就職者数 2,018 人と比較して、2023 年度は前年比 96.9%と減少している。

分野毎の前年比で見ると、人文科学 84.4%、社会科学 97.7%、保健 102.3%、教育 82.2%、理学 143.7%、工学 95.0%、その他 150.0%となり、保健・理学系を除き、全体的に減少となった。

分野毎の県内就職率は、人文科学 18.0%、社会科学 16.6%、保健 29.8%、教育 41.0%、理学 13.3%、工学 7.2%、その他 20.8%となっており、就職者数全体における県内就職率（19.9%）に照らし、教育、保健は県内への定着率が高いことが伺える。

- (4)-3 4-3 2023 年度 埼玉県内の自治体等への就職者数、
 (4)-3 4-6 2022 年度※ 埼玉県内の自治体等への就職者数

③就職者のうち埼玉県内自治体等への就職者数



【図 14】 TJUP 内大学・短期大学における就職者数（埼玉県内自治体等：2022、2023 年度）

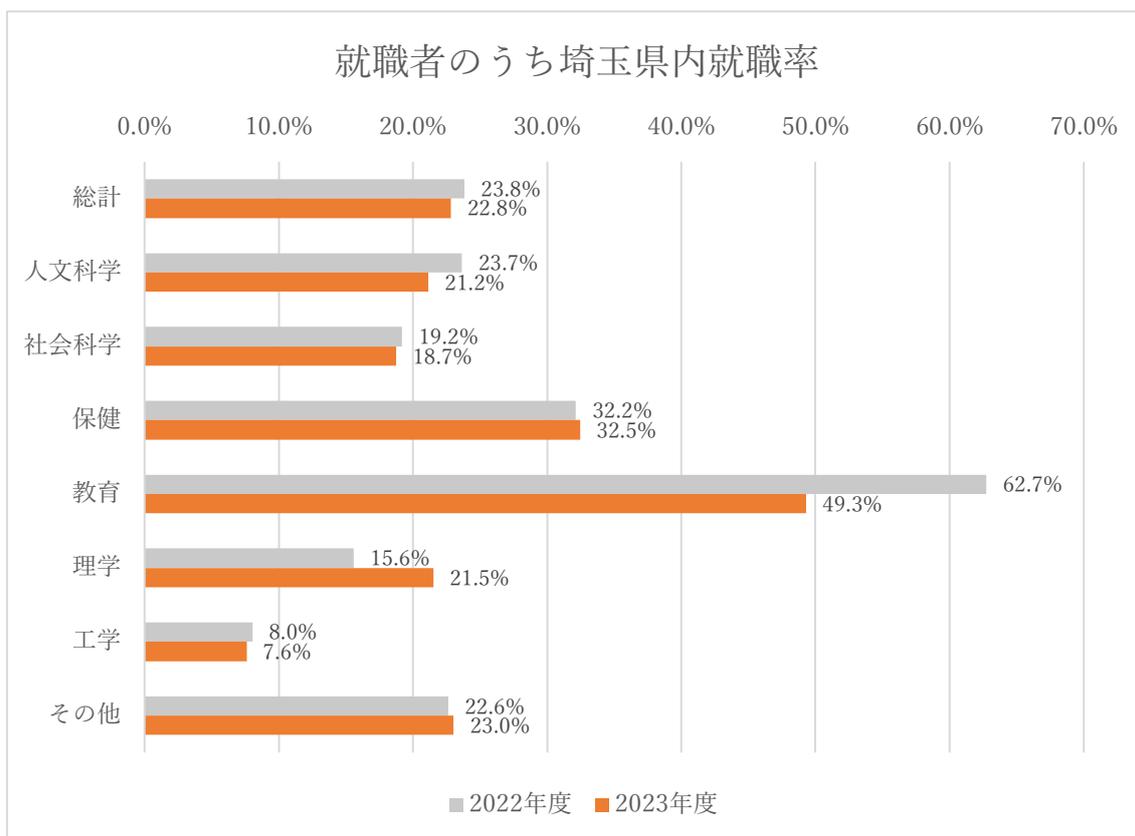
TJUP 会員校における埼玉県内自治体等への就職者数は、図 14 に示すとおりである。

就職者のうち埼玉県内自治体等への就職者は、279 人（上記①の就職者のうち 2.8%）であった。内訳は、人文科学 80 人（構成比率 28.6%）、社会科学 83 人（29.7%）、保健 43 人（15.4%）、教育 29 人（10.3%）、理学 28 人（10.0%）、工学 1 人（0.3%）、その他 15 人（5.3%）であった。2022 年度の埼玉県内自治体への就職者数 293 人と比較して、2023 年度は前年比 95.2%と減少している。

分野毎の前年比で見ると、人文科学 91.9%、社会科学 106.4%、保健 89.5%、教育 78.3%、理学 133.3%、工学 33.3%、その他 78.9%となり、社会科学・理学系を除き、全体的に減少となった。

分野毎の県内就職率は、人文科学 3.0%、社会科学 2.1%、保健 2.6%、教育 8.2%、理学 8.1%、工学 0.3%、その他 2.2%となっており、就職者数全体における県内就職率（2.8%）に照らし、教育・理学は比較的県内への定着率が高いことが伺える。

【その他】就職者のうち埼玉県内（企業＋自治体等）への就職率



【図 15】 TJUP 内大学・短期大学における就職率（就職者のうち埼玉県内就職率：2022、2023 年度）

TJUP 会員校における就職者に占める埼玉県内の就職率は、図 15 に示すとおりである。2023 年度就職率（総計）は、前年比 1.0 ポイント減であり、就職率が低下していることが分かる。

分野別就職率では、保健（前年比 0.3 ポイント増）、理学（前年比 5.9 ポイント増）、その他（前年比 0.4 ポイント増）の分野がそれぞれ微増となっている。一方、人文科学（前年比 2.5 ポイント減）、社会科学（前年比 0.5 ポイント減）、教育（前年比 13.4 ポイント減）、工学（前年比 0.4 ポイント減）がそれぞれ減少となった。

特に減少幅が大きかった教育は、昨今の教員不足への対策として、文科省が公立学校教員の採用者数を増やし続けているものの、少子化に伴う学校の統廃合が進んでいる点（＝就職先の減少）や、新型コロナウイルス以降、民間企業の採用状況が好転し始めた時期が重なったことで、県外の民間企業等に人材が流出していること等が要因として考えられる。

【まとめ】

今年度の調査では、「参加大学全体の入学者数 5% 向上」（アウトカム指標 (2)-2）、「参加大学全体の外国人留学生の入学者数 5% 向上」（アウトカム指標 (2)-3）、「活性化対象地域、埼玉県に事業所等がある企業、自治体等への就職率 10% 増加」（アウトカム指標 (4)-3, (4)-4）に関連した参加各大学の実態調査を行った。

まず「参加大学全体の入学者数 5%向上」(アウトカム指標 (2)-2) に関しては、志願者数が昨年度調査と比較しておよそ 1 割程度増加したことが確認できた。志願者数が増加した要因としては、コロナ禍の収束に伴い、地方から都市部の私立大学への志願者数が回復傾向にあることが一因と考えられる。一方、入学者数については、前年比 92.9%と減少傾向にあることが確認された。入学者数の減少については、さまざまな要因があるため一概に原因を推測することは困難であるが、近隣の競合大学等の動向が大きく影響を及ぼしている可能性もある。ただし、志願者数に対する入学者数の割合は、東京都出身者では 17%であったのに対し、埼玉県出身者の割合は 22%になっており、地元回帰の傾向は引き続き顕著である。

また、今年度からの調査項目として新たに追加された外国人留学生については、志願者数、入学者数ともに前年度比 5 割以上の大幅な増加となっており、現時点においてはアウトカム指標の基準を大幅に上回っている。コロナ禍の収束や円安、グローバル化を後押しする法制度改定の機運が高まっていることも要因と考えられるが、このような傾向が次年度以降も継続するかどうか注視していく必要がある。

最後に「活性化対象地域、埼玉県に事業所等がある企業、自治体等への就職率 10%増加」(アウトカム指標 (4)-3,(4)-4) に関連した調査では、全体的な就職者数はほぼ前年と変わらない結果であったが、埼玉県内での企業ならびに自治体等への就職者数については、前年比微減となっていることが明らかとなった。コロナ禍が収束したこと、また就職活動自体が学生にとっての売手市場である状況が関連している可能性があるが、こちらについても継続的な調査が必要である。

以上、今年度調査では、入学者、外国人留学生、就職に関する傾向に関する調査を実施した。2020 年度からのコロナ禍や、少子化、景気変動等の社会的変化等、現時点においてはまだまだ流動的な要因も多く、大学入学者や就職先に関するトレンド変化の確たる要因を分析することはまだまだ困難である。このため、今後も継続的な調査が望まれることはいうまでもないが、本調査において明らかとなった入学者、外国人留学生、就職に関する傾向について、TJUP 参加校として共有しうる情報を交換することで、より有効な対策を検討していくことが必要である。